

# まんとさく



## 「新短」の今

学生部長 宇野 文夫

本学は開学より二十五余年を経過しました。今回は「新短」の最近の状況をご紹介します。正門から坂道を下ると県道に出ますが、車がすれ違うのもやっとの狭い道でしたが、ようやく念願がかなって二〇〇四年四月に拡幅工事が完了し、片側に歩道の付いた広い道路に生まれ変わりました。

二〇〇四年四月には、保健師を養成する地域看護学専攻科（一年課程）が開設され、十五人の学生が学んでいます。今年からは、要件を満たせば本学専攻科での修得単位と論文で学士の申請ができるようになりました。

地域福祉学科の設置（一九九六年）に合わせて四階建ての一号館が新築され、学生会館（一九九一年建設）と並んで、丘の下から見上げる短大の姿は、すっかり変貌をとげました。

情報化も進展し、一三〇台以上のパソコンがネットワークに接続されています。学生はパソコンにIDとパスワードを入力して、成績などを閲覧することができます。同窓生の皆さんも是非一度母校にお越しただき、現在の「新短」をご覧ください。

発行 新見公立短期大学（岡山県新見市西方二六三の二） 〇八六七七二一〇六三四

編集 学報編集委員会

# 第七回鳴滝祭 開催される

鳴滝祭実行委員長 大久保友世

五月十四日・十五日の二日間にわたり、第七回鳴滝祭が開催されました。今年は七回目のラッキークー7からヒントを得て、「フイーバー777〜Nice 第7回鳴滝祭〜」というテーマを考えました。このテーマには、不景気で悩み多き時代だけでも明るくハッピーにフイーバーしているうー！ という前向きなメッセージがこめられています。また、鳴滝祭に参加していただいた学内外の人に幸運が訪れるようにという意味もこめられています。当日は天候にも恵まれ、訪れてくださった方や学生のいきいきとした笑顔をたくさん見ることができました。

一日目、オープニングは新見ウイ



ンドアンサンブルのファンファーレにのせ風船を青空へ向かって飛ばしました。なんとこの風船は三重県まで飛んだという知らせもありました。また、ピエロマサヒロのマジックバルーンアートショー、各部の催し、ミスコンなどの各企画がメインステージ上で行われ、多くの人に楽しんでいただきました。また、午後からは学生のみ参加で行われる中夜祭も多いに盛り上がりました。二日目はイケメン芸人、「旗麟」、「チユートリアル」を迎えてのプロコンサートを行い、大反響を得ました。また、哲西の楽団による演奏、空手も披露されました。豪華商品をかけてのビンゴにも学内外から多くの人々が参加してくれました。そして、二日間にもわたり、各学科・部活動などによる模擬店や、展示、チャリティイバザーもすばらしい賑わいを見せました。

この鳴滝祭を行うにあたって地域の方々、教職員の方、他大学の方など多くの方にご支援・ご協力を頂きました。この場を借りて、鳴滝祭に協力してくださった皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。また、第七回鳴滝祭実行委員にも本当に感謝しています。不甲斐ない自分が辛い時もありました。実行委員同志、悩みやぶつかり合いもあったかもしれませんが、しかし、互いに支え合い励まし合いながら、ひとつの事に一生懸命取り組みました。みんなの気持ちのひとつになって、第七回鳴滝祭が行われたという感動を、私は絶対に忘れません。この鳴滝祭を通して、かけがえのない多くの仲間に出会えたことを心から嬉しく思います。鳴滝祭を支えてくださったすべての人々に感謝します。そして、実行委員のみんな、お疲れ様でした。



## 学友会執行部より

学友会会長 綾井有紀

こんにちは。学友会執行部です！私たちが学友会執行部は各学科二年生五名、一年生二名、計二十一名の役員で運営しています。私たちのこれまでの活動は、新入生を迎えた四月には「学外オリエンテーション」、新緑の美しい五月には「スポーツ大会」を行いました。学外オリエンテーションは新入生を対象とし、備北青年の家に出かけ、豚汁を作ったりゲームをしたりして友達や先輩、先生方との交流ができました。今年は入学式の次の日だったこともあり、一年生の皆さんはまだ緊張のときない様子でしたが、それをとくよい機会になったのではないかと思います。また、スポーツ大会は学祭の疲れも残る中、みんなそれを感じさせない頑張りでした。自分のチームでなくても、一・二年生で同じ学科同士を応援したり、クラス全員で大きな円陣をくんだりして、一致団結する姿が多く見られました。雲ひとつ無い晴天の中、ちよつと日焼けしたみんなの笑顔は素敵でしたし、参加してくれた人全員の力で良い一日になりました。後に、「楽しかった！」という言葉がたくさんいただき、学友会執行部一同嬉しく思っています。

今後の学友会行事としては十二月に球技大会とクリスマス会を予定しています。講義や実習などで忙しい

毎日ですが、そればかりでは学生生活つまらないですよ！ たまには、行事に参加することで体を動かし、騒ぎ、笑いましょ。またみんなに楽しんでもらえるよう頑張りますので、学友会執行部をどうぞよろしくお願ひします。



## 地域看護学専攻科

十五名の第二期学生を迎えました！

### 専攻科に入学して

迫 麻美子

新見公立短期大学地域看護学専攻科に入学して早一ヶ月が過ぎました。私は、本学の看護学科を今年の三月に卒業して専攻科に入学したので先生方や新見の環境には親しみがありませんでしたが、十五名という少ない人数で勉強するのは初めてなので、最初は戸惑いもありました。しかし、少ない人数だからこそすぐに仲良くなれるし、団結力も強くなりました。先生方も我が子のように心配して下さったり、相談に乗って下さるので、本当にアットホームな環境だなと思いました。授業はビッシリとつまっているが大変ですが、皆と協力しあいながら頑張っていこうと思います。

松崎 尊恵

短大を卒業して早や五年、この春再び新見での学生生活を始めました。保健師を目指す日々は学ぶことが多く大変ですが、どこか新鮮で学ぶことの楽しさを感じます。これから始まる地域での実習については不安もたくさんありますが、自分の足で地域を歩き、そこで出会うであろう方々から多くのことを学び、地域の方々とともに成長できる保健師を目指し頑張っていきたいと思っています。

西山 幸恵

新見公立短期大学地域看護学専攻科に入学して、新見市で暮らし始めて一ヶ月が経ちました。私は関西出身で新見はもちろん岡山県で暮らすのも初めてで、最初は戸惑うこともありましたが、新見は、自然がいっぱいで本当に落ち着いて勉学に励むことのできる環境が整ったところだと実感しています。

私は看護学校卒業後臨床で働き、その後デイサービスセンターなどで働いた後この学校に入学しました。授業はまだ始まったばかりですが、これから今までの看護経験を活かしながら新たな知識・技術を吸収しスキルを高めていきたいと思っています。またこの新見という穏やかな環境で人間としても大きく成長できたいと思います。



# 看護学科

## ★看護師国家試験

「全員合格！」

二十三期生副担任 栗本 美一  
第九十三回 看護師国家試験が平成十七年二月二十七日に実施されました。昨年からの看護の基本が問われる必修問題の三十問が追加され、また、今年度から試験問題のプール制が導入されました。

今年度の国家試験の合格率は全国平均、九一・四％でした。

## 【最後まで頑張った学生たち】

二年生の終わり、復習を重視した全国低学年模擬試験に挑戦しました。結果はどの学生の成績も安心出来ないう状況でした。

三年生になり、学生たちは臨地実習や看護研究、就職・進学準備、国試勉強と多くの課題をこなさなければなりません。私たちは、学生に「実習を丁寧に取り組むこと、領域ごとに教科書に返り、基礎的知識を確認すること」を繰り返して助言しました。実習終了後に行う到達度試験が大きな関門となり、ようやく成績が「合格圏内」に近づき始めました。

## 【鰻上りの成績に】

一月に入り模擬問題を印刷し、学生個人のペースで問題を解いていくことを実施しました。一番しんどかったこの時期、励みになればと、一人一人の試験の結果をグラフにし、

成績の上昇を眼で見える形で配布しました。そのグラフを見ると、どの学生もぐんぐんと力をつけているのがわかります。最後の全国模試では、県内一位という成績になり、クラス全員が合格圏内で国家試験に臨めるまでに頑張ってきました。そして念願の「国家試験百分合格」をクラス全員の力で手に入れることができました。私たち担任は皆さんの頑張りを誇りに思っています。

おめでとー



「自分を信じて」  
二十三期生 茂山 優子

国家試験の勉強方法は人それぞれだと思えます。私は実習中、記録等で大変でしたが、その領域の過去問を解き、また実習メンバーと問題を出し合うことをし、楽しく勉強に取り掛かりました。実習で身を持って学んだこと全てが国試の勉強に繋がったと思えます。また、毎朝友達と決まった時間に起こしあい、学校で勉強しました。不安や悩みなどを互いに支え合える友達の存在は大きいものでした。

成績が伸び悩んだクラスでしたが、先生方が対策問題を印刷・配布、そして個人データ表を作ってください、沢山の問題を解きこなすことができました。それが自信に繋がりに、クラス全員で合格することができました。

先輩の皆さんも「自分に自信を持って」頑張ってください。



## 「みんなで合格！」

二十三期生 藤原 健太

私たち二十三期生は、看護師国家試験に全員合格しました。今回、その中で私なりの国家試験の勉強方法をお伝えしたいと思えます。まず「自分なりの勉強方法を確立すること」です。人によって覚え方も違うので、自分なりのペースで勉強方法を確立していくことが大切です。次に「とにかく問題を解く」ことです。国家試験の問題集などを何回も解き、解説が分かるまで調べ、理解するようにしました。五感をフルに使った勉強方法は長く頭に残ります。努力すればおのずと結果がついてくると思えます。「今しかない」と思って頑張ってください。



新任教員挨拶  
「はじめまして」  
助手 岡本 亜紀

はじめまして。地域・精神看護学助手の岡本亜紀と申します。看護師として川崎医科大学付属病院の集中治療室に八年間勤務して術後や心筋梗塞の患者様などの急性期看護に携わり、その後川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科に編入学して若い学部生たちと共に地域看護・保健学を学び、この春無事卒業して本学へ着任致しました。

この歳で一度社会に出てからまた学生に戻るというのは、いろいろ思うように行かず思った以上に大変でしたが、私の人生観、看護観を大きく変えた貴重なときでした。それを支えてくれたものは、私のがんばりと、家族・友人たち・大学の先生方でした。

人生の転機は人それぞれですが、「今がそのとき！」とは中々気づかないものです。つらく苦しいことにはもう耐えるのに必死で、無駄なこと一つもないなんて前向きにはなれません。でも、「今がそのとき！」か

学生の皆様には、これから先、様々な場面ですら苦しいことにつながるかもしれない。そして私自身も、教育者としての長い人生を歩き始めたばかりです。お互いに貴重なきときを支え、そして支えられる家族・友人・先生でありたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

地域福祉学科

【私の高校自慢】

一年次生 松井英里香

私が通っていた高校は、備中松山城下に広がる高梁市にあり、「有終の美をなす」という名目を掲げる高梁高校です。自慢できるもののひとつが猿です！体育の時間に群れでやってきた猿によく呼びかけたものでした。そして、何よりも自慢できるのが、素晴らしい先生方です。いつも笑顔で手を振って下さっていた校長先生をはじめ、迷っていた私を決断できるような導いて下さった先生。快くわがままを聞いて下さったり、また楽しい時間を過ごさせて下さった先生方。今、私が高校生活を充実し、かつ楽しいものだったと思えるのは、そのような先生方のお陰だと思っています。高梁高校大好きです！

私たちの母校

一年次生 阿部 祥之

西部 未莉

今治北高校、通称「今北」は創立一〇六周年の愛媛県内でも有数の伝統ある文武両道を重んじた学校です。

「今北」には普通科と商業科があり、中でも商業科は商業検定（珠算・簿記等）に毎年多くの生徒が一級を取得し、全国的にも有名です。また、部活動でも、ソフトテ

ニス部やボート部など様々な部活が全国的に活躍しています。環境的にも素晴らしく、特に春は学校周辺に多くの桜が咲き誇り、校章のデザインにもなっています。明治時代に愛媛県立の女学校だったこともあり、現在でもその名残からか、女子生徒の入学者の多い学校です。



はじめまして

講師 大竹晴佳



四月より地域福祉学科で社会福祉行財政論等の講義を担当しております。赴任して数ヶ月ほど経ちましたが、新見どころか岡山県、もと西日本も初めての土地であり、こちらの方言がまだ耳に新鮮に聞こえております。

今学期が始まってだいぶ経ちましたが、介護福祉士を目指す地域

福祉学科の学生たちの問題関心の高さには、日々驚くばかりです。こちらの授業への熱の入れ具合に対し、素直に反応してくれるので、やりがいを感じております。

高齢者介護は、近年の社会福祉の政策・制度改革における最重要課題だと言っても過言ではないと思います。その担い手として、「地域」への期待が高まっております。そのような時代に、新見市という地域に立脚した本学で介護福祉に関する教育・研究に携われることになり、福祉課題の最先端を担う場所に身を置くこととなったと引き締めています。これまでは大学の中で、理論や歴史を思いをめぐらす研究スタイルを主としてきましたが、福祉の現場に近い場所、色々と学ばせていただきたいとも思っております。これからどうぞよろしくお願い致します。



絵・松本尚子



学祭で売ったとうふドーナツは、意外に安くて、美味しくて人気でしたよ！



幼児教育学科

「にいみこどもフェスタ」

第一回 移動公演 開催!

幼児教育学科長 片山 啓子  
平成十六年度特色GPに採択された「にいみこどもフェスタ」は、二月二十六日(土)新見市公立ホールにおいて第十四回公演を、千四百名の観客を迎えて無事終了しました。続いて四月十七日(日)、合併して新見市になった哲西町において、新見生による初めての移動公演「こどもフェスタ インてっせい2005」を開催、新見エリアだけでなく広島県東城町の子どもたちも集めて、こちらも好評のうちに終了しました。

この移動公演は、地域の一人でも多くの子どもたちに舞台鑑賞の機会を提供したいと、かねてより念願していた取組です。この度、特色GPの採択を経てようやく実現の運びとなりました。二月の本公演ではその時の二年生が中心の舞台でしたので、四月に二年生になったばかりの学生たちで大丈夫かと危惧もしましたが、年度を跨いだ忙しい時期にもかかわらず、二月の舞台での感動を抱いたまま熱心に練習やプログラムの再構成に励み、おかげで子どもたちと楽しいひとときを過ごすと共に、設備の整った大きいホールでは味わえない自らの手による舞台造りの貴重な経験を得ることができました。

来年四月には、同じく合併した大佐町において第二回移動公演を実現させたいと思っています。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



「第14回 公演 にいみこどもフェスタ」

「第一回 移動公演 こどもフェスタてっせい」



新見公立短期大学に入学して

一年次生クラス委員

杉山 順子

私がこの大学に入学してからは、もう二ヶ月が経とうとしています。初めての一人暮らし、新しい学校生活にも慣れ、充実した毎日を送っています。幼児教育学科だけあり、みんな元気で明るく、優しい人たちがばかりです。入学式の日から、たくさんの人に声をかけられ、アドレス交換をし、写真を撮り、すぐにみんなと仲良くなれました。先生方も先輩方も生き生きとしていてとても親切で、学校に来るのがとても楽しいです。

先日行われた鳴滝祭では、初めてのことばかりで、クラス委員というプレッシャーもあり、どうなることかと不安でいっぱいでしたが、みんなの協力のおかげで大成功に終えることができました。私はこの大学へ入り本当に良かったと心から思っています。これから二年間、クラスの五十四名が保育士 という同じ夢を追いかけたいと思います。難しい講義もありますが、みんなと支え合い励まし合いながら、夢に向かって一歩一歩前進していきたいです。



絵・横山 絵美

# 同窓会の コーナー



看護学科第十期生  
高梁市役所嘱託  
常瀬 東美和子

短大を卒業し、十年が過ぎるのはあつという間でした。今は介護保険の認定調査員の仕事をしています。ほぼ毎日、在宅高齢者や入院中の申請者を訪問していますが、病院の中で仕事をしていた時とは違った視点で、在宅要介護高齢者への家族介護の大変さを痛感しています。年を重ねることの喜びを感じられるようなサポートができればと思います。



地域福祉学科  
第三期生  
長尾 綾子

今年で卒業して五年がたちます。私は、卒業して福祉とは関係のないケーキを作るという職についていたのですが、これは新見で偶然出会ったケーキ屋さんがきっかけでした。今でも大変お世話になっていて、当時の先生、友人たちとも縁が切れることなく職種を超えて意見を交換し合っています。よい刺激をもらっています。

そして私は今、また学生になっていきます。糖尿病やアレルギーのお客

様と出会ったこと、福祉の現場で働く友達から聞いた食と人とのつながりの話、いろいろなことがつながって、もっと詳しく栄養や食品、健康のことを知りたいと思ったからです。就職してから勉強することは多く、それに真剣に取り組んでいる友人たちの姿に励まされることもたくさんあります。

新見で出会い、同じ時間を一緒に過ごした大切な人たちとこれからも刺激を受け合えればよいなと思っています。

## ●働き始めて感じること

幼児教育学科第二二期生

根木 仁史

卒業後、保育士として旭川荘に就職し、知的障害児施設の重度棟で働き始めて三年目になりました。日々の仕事の中で感じるのは、自分の専門的知識の不足です。施設の半数以上の利用者の方々が、重度の知的障害に加え、自閉症の診断を受けています。良い援助を行っていくためには、個々の理解に加え、自らの知識を増やすことが必要だということを痛切に感じています。

平成十五年四月には支援費制度が施行され、障害者施策は、行政側からサービスを決してきた「措置制度」から、利用者の方々がサービスを選択して利用する制度に替わりました。新たな制度の趣旨を理解し、今後さらに利用者の方々の立場に立った援助サービスを実現していくた

めにも、貪欲な勉強が必要だと思っているこの頃です。

## ●看護学科第二十期生同窓会開催

曾谷 梓

平成十七年三月六日、看護学科第二十期生の同窓会が盛大に行われました。四十二名に加え、五名の先生方にも参加いただきました。看護師として第一の岐路に立つ人、新たな道に進む人等それぞれが大きく成長していました。同じ目標を持ち、共に学んだ仲間をいつまでも大切にしたいと思います。



看護学科第十六期生 大倉亜希子  
待っていました この時期になると毎年届く「まんさく」。新見へ入学してからはや十年になろうとしています。自分も学生だったときのこととを、つい最近のように思い出します。初めての一人暮らし、大学生活、実習、講義……。忙しくてあつという間の三年間でしたが、私の人生の宝物です。この時期、国家試験や入学試験、卒論で忙しかったことを

よく覚えています。私は助産師なので個人的には母性の領域の卒論は毎年気になります(私個人は母性の卒論にはしませんでしたが)。テーマだけでも気になる論文がちらほら見受けられます。今年も進学される方が多くいたようで喜ばしいことです。私の現在の就職先が東京なので、新見卒の方との接点はまったくないのが、寂しい限りです。「まんさく」の編集、毎回お疲れ様です。今後も楽しみにしていますから

## ●幼児教育学科第二二期生同窓会開催

中庭 美鈴

平成十七年五月三日、岡山市のホテルアネックスで、三十一名の参加を得て行われました。学生時代を思い出したり、近況報告をしたりと楽しい時間を過ごしました。



◆学報「まんさく」や同窓会のページについてのご感想や要望などがございましたら遠慮なくお知らせ下さい (e-mail: mansaku@nimitc.ac.jp)。

在籍者数

2005.5.31現在

	看護学科	幼児教育学科	地域福祉学科	地域看護学専攻科	計
1年次生	62	54	53	15	184
2年次生	62	52	54	—	168
3年次生	68	—	—	—	68
計	192	106	107	15	420

出身都道府県別在学生数

2005.5.31現在

府県	学科 学年	看護学科			幼児教育学科		地域福祉学科		地域看護学	合計
		1年	2年	3年	1年	2年	1年	2年	1年	
北海道					1					1
石川県							1			1
福井県					4			1		5
静岡県			1	1						2
愛知県				1		2		1		4
滋賀県		1	1							2
京都府			1		1		1		2	5
大阪府		1	2	1		1	1		1	7
兵庫県		14	17	21	10	9	3	6	3	83
奈良県					1					1
和歌山県			2	1	1	1				5
鳥取県		3	1	2	4	5	5	6		26
島根県		5	6	6	9	6	13	7		52
岡山県		4	9	13	7	5	13	10	4	65
うち新見市		①	①	②	⑤	①	⑤	⑤		⑳
広島県		5	6	4	2	1	1	4	1	24
山口県		4	2	3	2	3	3	3		20
徳島県			1	5		2	1	1		10
香川県		3	3	2	2	1	2	2		15
愛媛県		4	3	1	5	5	4	4		26
高知県		3		1		3	1	1		9
福岡県		2	4	1		1	1	1		10
佐賀県					1			1	1	3
長崎県		1	1		1	1	2	3	1	10
熊本県		1						1		2
大分県		4	1	2		1				8
宮崎県		2	1		1	2			1	7
鹿児島県		3		3	2	3	1	2	1	15
沖縄県		2								2
合計		62	62	68	54	52	53	54	15	420

どうぞよろしく

〈新採用〉

地域福祉学科講師  
看護学科助手

〈昇格〉

看護学科助教授

〈異動〉

図書館長  
看護学科長  
地域福祉学科長



大竹晴佳  
岡本亜紀  
杉本幸枝  
逸見英枝  
古城幸子  
伊藤博康

慶事のお知らせ

平成十六年三月に本学石田純郎教授が論文「蘭学医書の原著者とオランダの訳者たちの医学世界」で岡山大学から博士(文化科学)号を授与されました。さらに、本学古城幸子教授が平成十七年度の岡山県看護大会・地域医療事業功労者表彰式で、岡山県知事表彰・山陽新聞社会事業団理事長表彰を受けられました。また、本学原田信之助教授は平成十六年度日本学術振興会科学研究費出版助成を得て、『今昔物語集南都成立と唯識学』(勉誠出版、全四八〇頁、一五五〇〇円)という研究書を出版

されました。本学斎藤健司助手はドイツのエルランゲン大学での二年間の研究留学を終え帰国されました。記してさらなる研究の進展を祈念いたします。



絵・赤頭知里

編集後記

学報「まんさく」は本号で第三十号を迎えることになりました。本学が開学して四半世紀を過ぎ、卒業生の数も三千名を越えました。その間、本学も時代とともに変化してきました。校名も「新見女子短期大学」から「新見公立短期大学」になるとともに男女共学となり、男子学生の数も次第に増えてきています。学内や学校周辺の様子も、かなり変わりました。卒業生の方々に現在の「新短」がどういった状況になっているかを知っていただくのも良いのではということと、一頁目で「新短」の今」という特集を組んでみました。「短大坂」の入口付近の写真に驚かれた方も多いことと思います。今後も学報「まんさく」で進化を続ける大学の様子を伝えてゆきますので、気軽にメールなどで近況を教えてください。(原田)

編集委員

委員長

原田信之  
逸見英枝  
山内圭  
金山和彦  
矢庭さゆり  
松永美輝  
神原光